

## 中露対訳資料『華俄初語』について

萩原 亮

### 1. はじめに

本稿は、中国語とロシア語の対音対訳資料である『華俄初語』を対象として、書物の概要を紹介するとともに、その言語的特徴について初歩的な考察を行うものである。同書についてはShapiro(2010)がその資料的性格を簡単に紹介しているが、本稿においては、同書のキリル文字に対する音訳漢字と漢字に対するキリル文字音注から見た中国語の音韻的特徴について検討し、先行する露文資料との比較を通じて、同書の中国語史研究上における位置付けを行いたいと思う。

### 2. 資料概観

#### 2.1. 構成と内容

『華俄初語』は著者不詳、民国二年（1913）に初版が発行されたと思われる<sup>1</sup>中国人向けのロシア語教科書であるが、管見の限り、同書を所蔵する図書館は国内外を問わず確認できない。本稿で用いる竹越孝氏蔵本は哈爾濱商務印書局鉛印本、民国五年（1916）発行の第五版である。線装不分巻一冊で、冊大は16.3×10.7cm、全部で108頁からなる。表紙には『華俄初語』という書名のほか、右上に「中華民國三年六月第四版發行，中華民國五年三月第五版發行」と記されているが、奥付では「中華民國五年五月五版發行」と記す。民国三年は西暦1914年、民国五年は1916年に当たる。表紙裏には『華俄語言問答』という書物の広告が見られる<sup>2</sup>。序や跋はない。

同書全108頁の構成は以下の通りである。

- ①1-2頁 キリル文字の一覧
- ②3-4頁 子音と母音の組み合わせ

---

<sup>1</sup> 中国の古書流通サイト“孔夫子旧书网”において紹介された初版表紙の画像による。

<sup>2</sup> 頁上部に“最新出版”，右に題として“華俄語言問答二冊定價洋八角”とあり，改行して以下のような本文が続く（句読点は筆者による）：啓者本書局編輯最新華俄語言問答一書，業經出版，此書之宗旨，特為補助，進化起見。夫華俄合璧之書，種類既繁，能以純粹無訛者，不可多得。本局不惜鉅資，特請精通俄語文學兼全之繙譯，編輯此書，以供學者之應用。竭力討論，皆可指證。字句之斟酌，音韻之分晰，達到完全之目的，最要者語尾之變化加工，參考精確，毫無訛謬。文法次序，適合規則，及刷印紙料等等，盡用優美之品餉。諸君之歡迎，因未週知，敬告各界。賜顧駕臨敝局購閱是荷，商務印書局謹啓。

## ③5-100 頁 本文

## ④1-8 頁 華俄百家姓

①はキリル文字の字母のリストで、1頁はブロック体、2頁は筆記体で各字母の大文字と小文字を記し、それぞれに音訳漢字が付されている。②はキリル文字の子音と母音の組み合わせに音訳漢字を付した部分と、キリル文字の発音を調音点に基づき分類した部分からなる。③が同書の中心となる部分で、中国語とロシア語の語彙及びフレーズが対訳形式で表現され、ロシア語には音訳漢字が付されている。④は本文とは別に頁数が振られており、内容は漢字に対するキリル文字音注を付した「百家姓」である。

本文の内容は“数目”から“人的行動語”までの28部に分類されている。以下、仮に番号を付して部門の一覧とそれぞれの語数を示す。

1. 数目 (41 語) ; 2. 月部 (37 語) ; 3. 四季 (19 語) ; 4. 天地等類 (47 語) ; 5. 各種雑語等類 (119 語) ; 6. 人倫類 (37 語) ; 7. 周身部等類 (78 語) ; 8. 花卉樹木菓品种等類 (93 語) ; 9. 周絨布皮食物等類 (37 語) ; 10. 商務行市情形雑語等類 (50 語) ; 11. 房屋木器等類 (31 語) ; 12. 學術等類 (16 語) ; 13. 病症殘疾等類 (61 語) ; 14. 飛禽類 (37 語) ; 15. 藥在醫學等類 (10 語) ; 16. 家禽野獸等類 (31 語) ; 17. 冠裳衣履等類 (13 語) ; 18. 蔬菜五穀等類 (35 語) ; 19. 金銀銅鉄珠寶等類 (33 語) ; 20. 門窗牆基等類 (43 語) ; 21. 各種飲食調和等類 (46 語) ; 22. 貨物金銀錢總類 (23 語) ; 23. 國帝君臣文武官員 (46 語) ; 24. 各種蟲彖類 (15 語) ; 25. 人性情交接雑語等類 (51 語) ; 26. 士農工商醫學雑語等類 (117 語) ; 27. 各國名目 (34 語) ; 28. 人的行動語 (78 語)

本文では、以上の28類全1278語について、頁の左に漢字による中国語、右にキリル文字によるロシア語が対訳形式で並び、ロシア語の下には音訳漢字による発音が記される。

## 2.2. キリル文字とその音訳漢字

同書の冒頭にある、キリル文字の字母一覧を示した①と、子音と母音の組み合わせを示した②は、同書で用いられる音訳漢字の基準を示したものと考えることができる。まず①の全体を引くと以下の通りである。

Аа 阿 Бб 鰲 Вв 烏 Гг 傑 Дд 爹 Ее 耶 Жж 姐 Зз 咨 Ии 衣  
 Іі 一 Кк 卡 Лл 勒 Мм 挨木 Нн 鞞 Оо 襖 Пп 擊 Рр 挨耳  
 Сс 挨四 Тт 梯 Уу 五 Фф 挨夫 Хх 哈 Цц 次 Чч 切 Шш 斜  
 Щщ 十池 Ъъ 硬音 Ыы 碍夷 Ьь 軟音 Ъъ 掖 Ээ 碍 Юю 有 Яя 牙  
 Ѳѳ 非大 Vv 一十次

上では全部で 35 の字母に対して音訳漢字が付されている。1918 年の正書法改正以前であるため、i (イー・ス・トーチコイ)、ѣ (ヤーチ)、ѳ (フィター)、v (イーヅツァ) という 4 つの字母が見られるが、同書の本文部分においては ѳ と v は用いられない。

次に②の全体を引くと以下の通りである。

Ба 巴 бе 鰲 би 比 бо 波 бу 不 бы 彼 бѣ 鰲 бѣ 擺 бю 比有 бя 兵 Ва 瓦 ве 烏耶 ви 威 во  
 窩 ву 巫 вы 威 вѣ 越 вѣ 歪 вю 烏有 вя 烏牙 Га 岳 ге 傑 ги 吉 го 鍋 гу 古 гы 舉 гѣ 傑 гѣ  
 改 гю 九 гя 甲 Да 答 де 結 ди 低 до 多 ду 都 ды 德 дѣ 結 дѣ 歹 дю 丟 дя 賈 Жа 髻 же  
 這 жи 卽 жо 沼 жу 煮 За 雜 зе 姐 зи 卽 зо 作 зу 祖 зы 咨 зѣ 姐 зѣ 仄 зю 酒 зя 佳 Ка 缶  
 ке 結 ки 吉 ко 稿 ку 古 кы 居 кѣ 結 кѣ 凱 кю 求 кя 甲 Ла 拉 ле 列 ли 里 до 洛 лу 魯 лы  
 雷 лѣ 列 лѣ 蕊 лю 劉 ля 敵 Ма 馬 ме 滅 ми 米 мо 卯 му 母 мы 美 мѣ 滅 мѣ 苗 мю 謬  
 мы 詳 На 那 не 聶 ни 你 но 糯 ну 奴 ны 內 нѣ 聶 нѣ 乃 ню 扭 ня 念 Па 八 пе 擊 пи 必  
 по 坡 пу 不 пы 彼 пѣ 擊 пѣ 擺 пу 擊有 пя 兵 Ра 拉 ре 列 ри 利 ро 老 ру 魯 ры 雷 рѣ 列  
 рѣ 耳艾 рю 柳 ря 敵 Са 薩 се 些 си 西 со 梭 су 蘇 сы 隨 сѣ 些 сѣ 洒 сю 修 ся 夏 Та 他  
 те 結 ти 梯 то 道 ту 禿 ты 對 тѣ 鉄 тѣ 忒 тю 九 тя 甲 Фа 發 фе 付也 фи 肺 фо 佛 фу 福  
 фѣ 飛 фѣ 付艾 фю 付有 фя 付牙 Ха 哈 хе 揭 хи 喜 хо 火 ху 虎 хы 黑 хѣ 揭 хѣ 亥 хю 休  
 хя 匣 Ца 擦 це 切 ци 尺 цо 草 цу 族 цы 雌 цѣ 切 цѣ 採 Ча 茶 че 且 чи 吃 чо 戮 чу 秋  
 Ша 砂 ше 舌 ши 失 шо 紹 шу 書 шы 守 Ща 斜 ще 舌 щи 細 щи 少 шу 壽

上では、全 178 音節にわたって、キリル文字の子音と母音の組み合わせが示され、対応する音訳漢字が多くは一文字で、まれに二文字で付されている。このリストは、ロシア語の子音 б, в, г, д, ж, з, к, л, м, н, п, р, с, т, ф, х, ц, ч, ш, щ に対して、母音を а, е, и, о, у, ы, ъ, э, ю, я の順に組み合わせていったものである。

同書 4 頁の下部にはキリル文字の 31 字母をそれぞれの調音点に基づき 9 種に分類した部分がある。

唇音文字 П, Б, Ф, В, М

喉音文字 Г, К, Х

齒音文字 Т, Д

舌半音文字 С, З

半舌半齒音文字 Ц

顎音文字 Ж, Ч, Ш, Щ

舌音文字 Л, Н, Р

硬音文字 А, О, У, Ы, Ъ

軟音文字 Я, Е, Ю, И, Ь

以上のうち，“唇音文字”から“舌音文字”までは子音，“硬音文字”と“軟音文字”は母音を扱う。これらの用語は漢語音韻学で使用されるものと必ずしも一致せず，また“顎音文字”，“半舌半歯音文字”などいわゆる中古音の声母を表す用語とは意味が異なる。

### 3. 先行研究

管見の限り，同書に言及した先行研究は Shapiro(2010)のみである。同論はロシア語，中国語，モンゴル語などの接触によって生じたいわゆる中露ピジン<sup>3</sup>を論じたものであるが，中国にかつて存在したピジンの文献資料として『中俄話本』（1903），『華俄初語』，『中俄通俗話本』（1927），『清俄会話俱全校正無訛』（成立年不明）という4種の資料を取り上げ，前二者が標準的なロシア語を反映するのに対し，後二者はピジンを反映すると述べている。以下に本稿に関係する『中俄話本』及び『華俄初語』について説明した部分を引用すると以下の通り。

Shprintsyn (archive) gives a more detailed account of four textbooks. *Russian and Chinese Conversation* 中俄話本 Zhong1 E2 hua4ben3 (1902) and *Chinese and Russian Conversation for beginners* 華俄初語 Hua2 E2 chu1yu3 (6th edition 1927) tried to imitate standard written Russian and were only partially pidginized. They were typeset and their pages contained Russian words (in Chinese characters [sic] and Cyrillic) on the right and their Chinese translations on the left. The transcriptions of Zhong E (1902) were more precise and were probably based on the Russian spelling (cf. 歌耳五得 *ge1 er3 wu3 de2*, R[ussian] *grad* ‘chest’; 隈鉄耳 *wei1 tie3 er3*, R *veter* ‘wind’); Hua2 E2 was actually a revised versions of the first book, but its transcriptions were more similar to the real pronunciation of Chinese who spoke Russian (cf. 歌魯得 *ge1 lu3 de2* ‘chest’; 曰结拉 *yue1 jie2 la1* ‘wind’). These books were divided into chapters: ‘Military conversations’, ‘Conversations on railway contacts’, ‘Conversations of merchants’, etc. Appendices included the Russian alphabet, as well as the tables of Chinese syllables and last names (as pronounced in the Shandong dialect) transcribed in Cyrillic.

上で言う Shprintsyn archive とは，ロシアの言語学者シュプリンツィン（Александр Григорьевич Шпринцин, 1907～1974）が，主にロシア極東の沿海州における中露ピジン<sup>3</sup>を調査した際に収集した資料のアーカイブであり，現在モスクワのロシア国立歴史図書館（Государственная Публичная Историческая Библиотека России）に所蔵されている。

『華俄初語』については1927年の第六版が扱われており，これによって同書は初版が民国二年，第四版が民国三年，第五版が民国五年，第六版が民国十六年にそれぞれ刊行されたこと

<sup>3</sup> 同論は Chinese Pidgin Russian と称し，高田（2017）では「キャフタ貿易言語」という名称を用いている。

が分かる。上の引用によると、『中俄話本』と『華俄初語』はどちらも標準的なロシア語の教科書であるが、前者の転写がロシア語の綴りに基づいたより正確なものであるのに対し、後者の転写はロシア語を話す中国人の発音に基づいたものであるという。また、両書の巻末に付された百家姓に対するキリル文字音注については山東方言を用いて記したものと述べている。

上で『華俄初語』とともに扱われる『中俄話本』は清光緒 28 年 (1903) 初版刊行、著者は“俄國高福滿”とされる。用途としては、ロシア語母語話者向けの中国語教科書と、中国語母語話者向けのロシア語教科書という二つの側面があったと考えられる。巻首にはロシア語の音節表に漢字で発音を付したものの、巻末には「百家姓」にキリル文字で発音を付したものがある。本文はロシア語と中国語の語彙と例文が対訳形式並び、キリル文字で記されたロシア語の下にその発音が漢字で表記され、漢字で記された中国語の下にその発音がキリル文字で表記されている<sup>4</sup>。

以下では、『華俄初語』の全体像を明らかにすることを目的として、『中俄話本』とも比較しながら検討を加えていくことにしたい。

#### 4. 音訳漢字の分析

同書の中心をなす本文の部分では、各頁の左に漢字による中国語、右にキリル文字によるロシア語が対訳形式で並び、ロシア語の下には音訳漢字による発音が記される。例として第 2 部の「月部」から最初の部分を挙げると以下の通りである。音訳漢字の部分は括弧に入れて示す。

月部 Мѣсяць (滅斜次)

正月 Январь (揚瓦立)

二月 Февраль (非巫拉立)

三月 Мартъ (馬立特)

四月 Апрель (阿不列立)

上の最初の例では、“滅”が Мѣ, “斜”が ся, “次”が цѣ という音節に対応していることとなる。以下では、いくつかの特徴的な現象を取り上げ、『中俄話本』のキリル文字に対する音訳漢字も適宜参照しながら、比較を試みることにしたい。

##### 4.1. л と р の音訳

まず特徴的なのは、Shapiro(2010)でも言及されているように、ロシア語の子音 л と р の音訳に対して基本的にどちらも来母字が用いられていることである。

ロシア語の л は歯茎側面接近音[l̪]であり、本文において л は 408 例見られるが、音訳漢字は

<sup>4</sup> 『中俄話本』については、冯志英、温云水 (2014) 及び萩原 (2020) を参照。

全て来母字が用いられている<sup>5</sup>。なお、以下の例示にあたっては、見出しの中国語とキリル文字によるロシア語を挙げ、括弧内に音訳漢字を示す。

- (1) 夏 Лѣто (列倒) p.10  
 (2) 谷 Долина (多里那) p.15

(1)の場合、“列”がЛѣを表し、(2)の場合、“里”がлиを表していると考えられる。

ロシア語のрは歯茎ふるえ音[r]であるが、同書においてはлの場合と同様にほとんどが来母字を用いる。本文においてрは579例見られるが、そのうち575例が来母字で音訳される。

- (3) 山 Гора (鍋拉) p.15  
 (4) 雙親 Родители (老低結里) p.24

(3)の場合、“拉”がраを表し、(4)の場合、“老”がРоを表していると考えられる。

残りの4例ではрの音訳に“耳”が用いられている。

- (5) 督都 Гбернаторъ (姑鱉耳那道里) p.76  
 (6) 斜爾國 Сербия (些耳鱉牙) p.94

なお、同書で用いられる来母字は27字あり、そのうち16字がлとともにрを表す場合にも用いられている<sup>6</sup>。

一方、『中俄話本』でロシア語のрを表す場合には、“耳”という字を用いて“耳+X”という形を作り、そこに下線を付すことで、漢字二字によってロシア語の一音節を表す場合が多い<sup>7</sup>。

- (7) 山 Гора (鍋耳阿) 17a<sup>8</sup>

<sup>5</sup> ロシア語の語彙にлが含まれるが、音訳漢字に反映されない場合もわずかにある。例えば、“半夜 Полночь (寶撓尺)”では、音訳漢字においては子音連続が反映されていない。このような例は4例見られる。

<sup>6</sup> 27字は以下の通り：“立”，“兩”，“勒”，“里”，“列”，“雷”，“魯”，“臘”，“洛”，“拉”，“連”，“流”，“老”，“劉”，“了”，“羅”，“力”，“梨”，“遼”，“蘭”，“裏”，“林”，“麟”，“瀏”，“利”，“亮”，“留”である。このうち，“立”，“兩”，“勒”，“里”，“列”，“雷”，“魯”，“臘”，“洛”，“拉”，“老”，“了”，“羅”，“力”，“蘭”，“留”がрの音訳にも用いられる。

<sup>7</sup> 全体の傾向としては圧倒的に“耳+X”が多いが、来母字が用いられることもある。例えば，“拉”は89例中73例がлаに、16例がраに対して用いられている。ただし、後者は第74葉以降にのみ見られ、分布に偏りがある。また，“洛”は127例中119例がл-に対して用いられるが、8例がр-に対して用いられ、かつ後者は第44葉以降に見られる。どちらも文例部に多く見られるのが特徴である。

<sup>8</sup> aは葉の表面を、bは裏面を指す。

## (8) 雙親 Родители (耳鄂低鉄里) 10a

(7)の場合，“耳阿”がpaという音節を表し，(8)の場合，“耳鄂”がpoという音節を表していることになり，このような方法を用いることで，舌端のふるえを近似的に表していたと考えられる。『中俄話本』の手法は，ロシア語の音を漢字で表す手法の一つであった「グーリー文字」に類似するものと言える<sup>9</sup>。

以上によれば，『華俄初語』では接近音とふるえ音を類似したものと捉えていたことが分かる。

## 4.2. 語末閉鎖音の音訳

ロシア語は語末に閉鎖音-б, -д, -г, -п, -т, -кが現れるが，同書においては旧入声所属字がその音訳に用いられることがある。

(9) 禮拜一 Понедѣльникъ (保你結里你克) p.10

(10) 六十 60 Шестьдесятъ (舍四几結夏特) p.6

(11) 樹柞 Дубъ (都北) p.33

(9)の場合，“克”がкъを表し，(10)の場合は“特”がтъを表し，(11)の場合は“北”がбъを表していると考えられる。ここで用いられる硬音符号ъは旧正書法において語末の硬子音に添えられていたが，実質的な音は持たない<sup>10</sup>。それぞれの語末閉鎖音に対する音訳漢字の内訳は以下の通り：-бъに対して“比”が3例，“波”が2例，“歩”，“北”，“背”がそれぞれ1例；-дъに対して“塔”が10例，“答”，“特”がそれぞれ5例，“徳”が3例，“打”，“得”がそれぞれ1例；-гъに対して“格”が8例，“歌”が5例，“嚙”，“哈”が1例；-пъに対して“背”が4例，“必”，“波”がそれぞれ1例；-тъに対して“特”が48例，“几”が3例，“忒”が2例，“他”が1例；-къに対して“克”が125例，“客”が15例，“格”，“几”がそれぞれ1例である。のべ26字中15字，約6割が入声字である。

ただ，上記の漢字は/-ə/, /-a/, /-i/など，単母音を持つ字が用いられる傾向が強いことから見て，基礎となった方言において入声字が当時まで閉鎖音韻尾を保っていたというよりは，同書の編者にとってロシア語の語末閉鎖音を表す場合は単母音の字が適していると感じられたとい

<sup>9</sup> ロシアの東方正教会による『新遺詔聖經』(1864)などの漢訳聖書には，ロシア語音を表すための一種の合字が用いられており，考案者の名前を取って「グーリー文字 (固氏新字)」と呼ばれている。例えばриという音節を表す場合，“利”を左に，“爾”を右に配置し，それぞれの漢字の幅は半分程度で記される。『中俄話本』がこの表記法の影響を受けているか否かは不明。

<sup>10</sup> 佐藤 (2012) によると，古ロシア語における弱化母音字ъとьは，12世紀以降の弱化母音の消滅によって，他の母音と交替，あるいは綴りから脱落するという変化を蒙り，次第に音価を失ったとされる。

うことであろう。

『中俄話本』における語末閉鎖音に対する音訳の内訳は以下の通り：-бьに対して“北”が3例，“破”が2例，“波”が2例；-дьに対して“德”が25例，“低”が5例，“爹”が2例，“得”が1例，“打”が1例，“代”が1例；-гьに対して“歌”が16例，“可”が2例，“噶”が1例，“哈”が1例，“各”が1例；-пьに対して“部”，“波”，“坡”，“破”，“北”がそれぞれ1例；-тьに対して“忒”が54例，“梯”が23例，“特”が20例，“嗒”が2例，“德”が1例，“氣”が1例；-кьに対して“可”が165例，“佉”が8例，“呵”，“哈”，“科”がそれぞれ1例である。のべ30字中8字，約3割が入声字であるが，やはり単母音が多く，上と状況は変わらないであろう。

また，現代ロシア語において有聲子音が語末に現れる場合や，有聲子音に無聲子音が続く場合は，それぞれ対応する無聲子音として発音されるが，この子音の無声化に関しては特徴的な音訳漢字上の現象は見られない。

(12) 進項 Доходь (多火塔) p.44

(13) 水酒 Водка (窩塔缶) p.70

(14) 冰糖 Ледникъ сахаръ (列塔你克 沙哈力) p.71

(12)の場合，語頭のдは有聲，語末のдは無聲であり，それぞれ“多”と“塔”が対応している。(13)の場合，語中のдは無聲で，“塔”が対応している。一見すると有聲のдには無気音，無聲のдには有気音の字が対応するという使い分けがあるように思われるが，(14)の場合是有聲のдに有気音の“塔”が用いられ，有聲と無聲どちらにも使われていることが確認できる。『中俄話本』も概ね同じ状況である。

#### 4.3. 軟口蓋音+狭母音の音訳

軟口蓋音+狭母音を表す音節 ки-, ке-, ги-, ге-などについては，基本的に牙喉音声母+細音の漢字が用いられる。

(15) 小的 Маленький (嘛連吉) p.22

(16) 骨頭架子 Скелеть (四結列几) p.29

(17) 你們小心 Берегитесь (別列鷄結西) p.18

(15)の場合“吉”が кий という音節を表し，(16)の場合“結”が ке という音節を表し，(17)の場合“鷄”が ги という音節を表していたと考えられる。軟口蓋音+狭母音を表すいくつかの音節に対する音訳漢字の内訳は以下の通り：ки-に対しては“几”が7例，“吉”が6例，“記”が4例；ке-に対しては“結”が1例；ги-に対しては“鷄”が3例，“吉”が4例，“及”が1例；ге-に対しては“傑”が3例，“結”が2例である。なお，хи や хе という音節を含む語は本文



中には現れない。

一方、これらの音訳に使われている漢字は、ти, диなどの齒茎音+狭母音の音訳にも用いられている。

(18) 等等 Погодить (保國吉几) p.16

(19) 臘月 Декабрь (結缶不立) p.8

(18)の場合、“吉”がдиを表し、(19)の場合、“結”がДеを表していたと考えられる。“吉”は16例中軟口蓋音+狭母音に用いられる13例<sup>11</sup>を除くと、2例がти, 1例がдиに対して用いられ、“結”は109例中軟口蓋音+狭母音に用いられる3例を除く53例がте, 3例がтѣ, 1例がтѐ, 32例がде, 16例がдѣに対して用いられている<sup>12</sup>。他の牙喉音声母+細音の字も同様に齒茎音+狭母音の音訳に用いられることが多い。

(20) 現錢 Наличные деньги (那里喫内牙 見鷄) p.44

(20)の場合、“見”がденьを表していたと考えられる。この状況から判断して、同書の基礎方言においてはこれらの字の舌面音化がかなり進行しており、聴覚的にある程度近かったти, диなどの音訳にも用いることが可能であったと考えられる。軟口蓋音+狭母音の音訳に用いられる字については、以前の字音に対する知識によって選択されたものであろう。

『中俄話本』におけるキリル文字に対する音訳漢字の状況も類似している。киという音節に対しては“吉”と“低”が用いられているが、“吉”の音訳漢字における出現状況を調べてみると、全35例中、軟口蓋音であるкиやгиに対して用いられている例が14例、齒茎音であるти, ди, дѣに対して用いられている例が21例であり、『華俄初語』の場合と同様に牙喉音の舌面音化が進んでいた段階にあったと考えられる。

#### 4.4. 母音で始まる音節の音訳

母音で始まるロシア語の音節に対する音訳漢字は、ほとんどが現代北京語においてゼロ声母である字が用いられているが、日母字が用いられている例も見られる。

(21) 營造 (工師) Инженеръ (人即聶勒) p.90

(22) 外國鷄 Индѣйка (仁結宜噶) p.55

(23) 油布 Клеенка (卡列然噶) p.74

(24) 野兔子 Заяць (再日次) p.59

(21), (22)の場合、それぞれ“人”と“仁”がИнを表し、(23)の場合“然”がенを表し、(24)

<sup>11</sup> 13例の内訳は、上記10例のほか、1例がкий, 2例がkiに対するものである。

<sup>12</sup> “結”の109例の内訳は、上記108例のほか、子音гに対するものが1例ある。

の場合“日”が я を表していたと考えられる。“人”は1例，“仁”は3例，“然”は1例，“日”は1例音訳漢字として見られるが、これらの日母字は母音で始まる音節に対してのみ用いられ、ж-や з-などの摩擦音に対する音訳に用いられることはない。

一方、『中俄話本』の漢字に対するキリル文字音注において日母字の多くはゼロ声母で現れているが、キリル文字に対する音訳漢字において、日母字は ж- の音訳に用いられており、母音に対応する例は見られない。『中俄話本』の基礎方言ではゼロ声母の発音が通行していたが、声母を伴う発音が規範であることを認識していたため、キリル文字音注と音訳漢字における用法に差が生まれたのではないかと考えられる。

#### 4.5. 小結

上で検討してきた『華俄初語』における音訳漢字の特徴を、『中俄話本』と比較した上で表に示すと以下の通りである。

表1. 『華俄初語』と『中俄話本』における音訳漢字の特徴

	л と р の音訳	語末閉鎖音	軟口蓋音+狭母音	母音に対する日母
『華俄初語』	どちらも来母	単母音が多い	牙喉音声母+細音	一部日母
『中俄話本』	л: 来母 р: 耳+X	単母音が多い	牙喉音声母+細音	日母なし

両書のキリル文字に対する音訳漢字は語末閉鎖音に対応する音訳漢字や軟口蓋音+狭母音に対する処理において類似しているものの、л と р の音訳や日母の使用に関しては少し異なっている。このうち、軟口蓋音+狭母音は基礎方言に関わる問題であり、л と р の音訳と日母の扱いは音訳の手法に関わる問題である。基礎方言については共通性が高いものの、音訳にはそれぞれ独自の処理が見られると言える。

### 5. 「華俄百家姓」のキリル文字音注

以下では、『華俄初語』所収「華俄百家姓」の漢字に付されたキリル文字音注を対象として、いくつかの特徴的な現象を取り上げる。

#### 5.1. 日母字の表記

華俄百家姓において、日母字はゼロ声母で表記される。

(25)融 (Юнь), 戎 (Юн), 榮 (Юн), 容 (Юнь), 任 (Инь)

4.4.で述べたロシア語の母音の音訳に日母字が使用される現象と同様の状態を反映していると思われる。

『中俄話本』の百家姓においても日母字はゼロ声母で現れる。

(26)融 (Юн), 戎 (Юн), 榮 (Юн), 容 (Юн), 任 (Ин)

硬音符号の有無を除けば、ほぼ同様の表記と言える。

## 5.2. 尖団の区別

華俄百家姓において、尖団の区別は基本的に保たれる。

(27)蔣 (Чзян), 江 (Гьян), 秋 (Чу), 邱 (Кью), 徐 (Сю), 許 (Хюй)

4.3.で述べたように、同書の基礎方言においては団音の舌面音化がかなり進行していたと考えられるが、華俄百家姓においては規範意識が働いて尖団の区別が保たれていたと思われる。

『中俄話本』の百家姓でも同様に尖団の区別がある。

(28)蔣 (Чзян), 江 (Гьян), 秋 (Чу), 邱 (Кью), 徐 (Сю), 許 (Хю)

韻母の表記が若干異なる字も見られるが、声母の表記は一致している。

## 5.3. 疑母及び影母の開口一二等字の表記

北京音においては疑母及び影母の開口一二等字はゼロ声母であるが、華俄百家姓においては声母 Ны を伴うものが見られる。

(29)安 (Ань), 艾 (Ный), 敖 (О)

一方、『中俄話本』の百家姓は全て声母 Ны または Н を伴って現れる。

(30)安 (Ныан, Нан), 艾 (Ный), 敖 (Нью)

賀魏 (1986) は疑母及び影母の開口一二等字が声母/n-/を持つかによって東北方言を“吉沈片”, “哈阜片”, “黑松片”に分類している。“吉沈片”は一般的にゼロ声母であり, “哈阜片”は一般的に声母/n-/を伴い, “黑松片”は話者及び地域によって異なるとされる。両書の百家姓におけるこの差は、基礎方言が完全に一致しているわけではないことを意味すると思われる。

## 5.4. 小結

以上に述べた点を『華俄初語』と『中俄話本』の対照で示すと以下の通りである。

表 2. 『華俄初語』と『中俄話本』における百家姓に対するキリル文字音注の特徴

	日母字	尖団の区別	疑母影母開口一二等
『華俄初語』	ゼロ声母	あり	一部声母あり
『中俄話本』	ゼロ声母	あり	全て声母あり

Shapiro(2010)は『華俄初語』と『中俄話本』における百家姓が山東方言に基づくとしているが、その根拠は述べていない。上で見てきたところによると、確かに山東半島で用いられる膠遼官話に近い特徴が認められるが、山東方言と東北方言は歴史的に関係が深く、賀魏(1986)によれば黒竜江省や遼寧省には膠遼官話の方言島が存在するという。両書が主に貿易のために用いられていることを考慮すれば、山東方言に似た特徴を有する東北方言に基づいている、と考えるのが穏当であろう。

## 6. まとめ

本稿では、『華俄初語』に見られるいくつかの音韻の特徴について検討を行ってきた。音訳漢字の特徴から、同書と『中俄話本』の基礎方言に共通性があることが窺えるものの、音訳漢字の使用法の面では、両書は互いに独立していると推測される。どちらも清末・民国初の中国語北方方言を反映したロシア語との対訳資料として、一定の価値を有すると思われる。

なお、同書では、量は少ないものの、二人称代名詞“您”と“你老”が併用されている点、動詞接尾辞・文末助詞として“了”，“拉”，“啦”が用いられる点など、語彙・語法面でも興味深い現象がいくつか見られる。それらの分析については今後の課題としたい。

## 参考文献

<日文>

佐藤純一(2012)『ロシア語史入門』, 東京: 大学書林

高田時雄(2017)「ピジンと漢字: 中国における交易言語」, 『大手前比較文化学会会報』18, pp.23-28.

萩原亮(2020)『『中俄話本』の言語について』, 『中国語研究』62, pp.1-23.

<英文>

Shapiro, R.2010. Chinese Pidgin Russian. *Journal of Pidgin and Creole Languages* 25(1): pp.5-62; 2012. *Pidgins and Creoles in Asia*. Amsterdam: John Benjamins.

<中文>

冯志英・温云水(2014)〈清末《中俄话本》初议〉, 《内蒙古师范大学学报》27(9), pp.34-36.

贺魏(1986)〈东北官话的分区(稿)〉, 《方言》3, pp.172-181.

<露文>

Попово, И.Ф., Такага, Т.2017. *Словари кяхтинского пиджина*. Москва:Наука.